

**日本農芸化学会  
第97年次大会講演発表データベース**

講演番号	2A19p08
分類	一般講演
講演日時	2004/03/29 14:54
会場	A19
演題	鶏卵抗体(IgY)の高度利用その3?抗インフルエンザウイルス IgYの特性
発表者氏名	○中村 剛、梅田 浩二 <sup>1</sup> 、楠 慎一郎 <sup>2</sup> 、新井 潤一郎 <sup>3</sup> 、並木 秀雄 <sup>4</sup> 、ヌグエン・バン・サー <sup>1</sup> 、金 武祐
所属	ファーマフーズ研究所、 <sup>1</sup> ゲン・コーポレーション、 <sup>2</sup> エル・エス・エル、 <sup>3</sup> ダイキン環境研究所、 <sup>4</sup> 早大 教育
要旨	<p>【目的】空気中に浮遊するインフルエンザウイルスの捕捉、中和を行うフィルター作製を目的として、我々は抗インフルエンザウイルス鶏卵抗体(IgY)の調製を試みた。抗原には入手が容易でヒト感染性の低いブタ由来のインフルエンザウイルスを用いた。そこで本研究では抗ブタ由来インフルエンザIgYの特性を中和試験およびヒト由来インフルエンザウイルス抗原との交差性試験から検討した。【方法と結果】ブタ由来のインフルエンザウイルスShizuoka株(A/H1N1型)、Wadayama株(A/H3N2型)を各々鶏に免疫し抗インフルエンザIgYを得た。中和試験ではウイルスとIgYを反応させたものを発育鶏卵で培養し、HA価を測定した。その結果、抗インフルエンザIgYは10分間の反応で対照区(非特異的IgY)に比べて有意にウイルスを中和することを確認できた。さらに交差性試験については上記抗インフルエンザIgYが、ヒト由来ウイルス抗原と交差するのかを検討した。</p>

[\[一覧表ページへ戻る\]](#)

[\[検索条件入力画面に戻る\]](#)

Copyright(C) 1997-2011 All rights reserved JSBBA.  
Produced by DYNACOM Co.,Ltd.